

市民病院だより

乳がん検診について

マンモグラフィ撮影認定技師

友田 美代子

乳がんの現状

現在、日本人女性の12人に1人が乳がんになっています。そして近年、乳がん患者が増加しています。

ある調査で2011年の女性のがん罹患率の第1位は乳がんです。また、2013年のがん死亡率では第5位です。年間約1万3千人の方が乳がんで命を落としています。

一方、乳がんの5年生存率は約9割で、その中でも早期の0、I期ではほぼ100%に近いものとなっています。乳がん検診は無症状のうち早期に乳がんを発見することを目的にしています。

乳がん検診の現状

2013年の乳がん検診率は、全国平均は34.2%、佐賀県では

26.5%、小城市では41.4%です。全国平均から見ると、小城市は乳がん検診の受診率が高いことが分かります。

受診率が上がれば、死亡率は減少すると言われています。米国では約8割の方が検診を受けており、罹患率は増加していませんが、死亡率は減少しています。

佐賀県は近年死亡率は減少傾向にあります。さらなる死亡率減少に向けて、今後も受診率を上げることが課題です。

それでは、乳がん検診を受けてどのくらいの方に乳がんが見つかるのでしょうか？

検診を受けた方の10人に1人が要精密検査となり、その精密検査に来た50人に1人が乳がんと診断されています。

このように要精密検査の通知が来ても必ず乳がんとは診断され

るわけではありません。要精密検査の通知が来たら早めに医療機関を受診しましょう。

乳がん検診Q&A

検診の時によく受ける質問を紹介します。

Q 乳がん検診はどんな内容ですか？

A 問診・マンモグラフィ検査・視触診の3つです。マンモグラフィ検査のみや視触診のみの検診はありません。

Q 年齢によって検査内容は違いますか？

A 対策型検診では40歳以上で2方向、50歳以上で1方向撮影します。

Q 毎年受けたほうがいいですか？

A 国の指針では2年に1回となっています。2年以上空けないようにしましょう。

Q 気絶するくらい痛いんですか？

A 乳房を可能な限りのばして挟みます。まったく痛みがないわけではありません。我慢できるくらいだったと

言われて帰られる人が多いように感じます。

Q 乳房の大きさと痛みが違いますか？

A 痛みは乳房の大きさではなく硬さによって違ってくるようです。乳房のハリが少ない生理1週間後から10日あたりで検査を受けましょう。

乳がんは数少ない自分で発見できるがんと言われており、自宅でできる自己検診があります。鏡の前で乳房の形を確認したり、仰向けで寝た状態で乳房や乳首、わきの下を触ってしこりやくぼみ、分泌物などの変化がないかを確認します。

そして、乳がんは他のがんと比べて10歳若い40歳代から50歳代の働き盛りの方に多くなっています。自分のために、また家族のために定期的に乳がん検診を受けよう心がけましょう。

お知らせ

9月より婦人科診療が拡充しました。

毎週月曜日の午前・午後女性医師が診療を行います。よろしくお願ひします。



【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>